

令和元年度 第1回 東海村スポーツ推進計画推進委員会会議録

1	開催日時	令和2年2月14日(金) 18時30分から20時10分まで
2	場所	東海村役場 別館 101会議室
3	出席者 (敬称略)	<委員> 塚原美光, 鈴木範英, 黒羽根史朗, 照沼和弘, 石丸美代子, 田畑由紀子, 小泉親彦, 竹下浩一, 松坂晃, 橋本礼子, 久保田泰世 <事務局> 庄司真澄(教育部長), 大道雄治(国体・スポーツ推進課長), 物井聡(国体・スポーツ推進課係長)
4	欠席者 (敬称略)	杉山章子, 吉沼玲子, 川崎明彦, 植田裕美
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	—
7	協議・説明事項	・スポーツ推進計画の進捗状況について
8	配布資料	・東海村スポーツ推進計画の進捗管理シート《資料1》 ・スポーツきっかけづくり「Be:スポーツ」推進事業(ジュニア運動遊び教室)〔参考資料①〕 ・「東海スマイルマラソン2020」公募ボランティア実績報告〔参考資料②〕 ・スポーツ大会出場奨励金〔参考資料③〕 ・東海村運動・スポーツ総合情報ページ〔参考資料④〕
9	発言内容	■議事進行：松坂委員長 (1) スポーツ推進計画の進捗状況について ○ 配付資料の説明…資料1(基本目標1) 委員) 総合型スポーツクラブの認知度も上がってきていると感じており, クラブとしても子供達へのスポーツへのきっかけづくりに繋がる教室を展開していきたい。また, 茨城大学と連携することで, 陸上やバスケットボール教室では大学の先生から

	よい御指導をいただいている。 委員) 中丸小学校では、「東海村ニュースポーツクラブ」の協力により、4年生を対象に「バグジー」「シルクボール」「オーバルボール」といったバリアフリーの種目を実施した。子供たちは大変喜んでいし、よい経験になった。また、進捗管理シートの達成指標について、今年度と策定時の数値とを比較するに当たり、対象となる子供が違うので誤差があると思われる。可能であれば、同じ子供を対象に調査を実施したほうがよいと感じた。 委員) スポーツ少年団でサッカーを指導している。サッカーは団員が増えているが、サッカー以外のスポーツもやらせたいと思っている。スポーツ少年団の低学年を対象に実施している夏季大会ではニュースポーツの体験もさせているが、できるだけいろんな競技、種目を体験できる機会があるとよい。 委員) スポーツ少年団で空手を指導している。空手はオリンピックの新種目として注目を浴びているが、競技人口は減少傾向にある。また、子供の体力は低下しつつあるようで、屋外での遊びが重要だと思われる。また、スポーツ推進委員としての活動では、学童クラブや自治会等へのニュースポーツの普及にも取り組んでいきたい。3月にはフローレスタ須和間子供会のイベントで190人ほどが集まる予定である。 委員長) 達成指標について、小学生は約200人のデータで、数人回答が変わると数パーセント数値が変わる。この達成指標の数値に一喜一憂せず、そのプロセスを大切にしたい。ニュースポーツの参加者数や親子でのスポーツ教室の参加者数がどれくらい増えたかといった数値を追ってみたい。また、体力低下の意見が出たが、昔に比べトップレベルの子の体力は上がっている一方、平均値が下がっている。これは、スポーツに関わらない子の体力の低下が著しいため。スポーツに関わらない子をどのようにフォローするかが課題である。 委員) 1-①の「アクティブ・チャイルド・プログラム」の実施に関して、自分の子供が石神幼稚園に通っており、スポーツ
--	---

	テストの結果表が幼稚園から配られる。走る、跳ぶ、投げる等、項目ごとに達成度、運動能力が具体的に把握できてよい。達成度が分かると子供の自信にもつながり、スポーツを楽しむきっかけになると思うので、他の幼稚園でも同様の取組が広がるとよい。また、先月、スマイルマラソンの親子の部にも参加したが、ゲストランナーとして元陸上選手の渋井陽子さんが来村し、大変盛り上がった。 委員) 子供がスマイル東海の陸上教室1期生として参加した。子供達がスポーツに関わるきっかけは、子供では見つけにくいものなので、親が目をかけながら支援していくことが大切だと感じる。また、公園等でも遊具が減っていく中、近所でお父さんが自宅の庭に鉄棒をつくっているお宅がある。実際に、お父さんも子供と一緒に鉄棒で遊んでいる。 委員長) 父親が子供と一緒にスポーツをすることで、親が子供のロールモデルとなっており、素晴らしいことである。また、学校のスポーツ活動について、部活動の加入率は高い一方、外部指導者や地域スポーツクラブにおいて、選手育成と教育問題といった課題もある。 委員) 教員になってから21年間中学校におり、部活動では外部指導者も活用した。学校教育の中の部活動は生活指導の側面もあり、学校生活での人間関係が部活動での子供たちのプレーにも影響が出る中で、外部指導者の方と情報共有等の時間が持てるかどうかのポイント。教育面での育て方、スポーツの育て方のギャップをどう埋めるか。学校としては教育面での指導も行いたい、勝利至上主義の外部指導者の場合、意識の違いの差がある。外部指導者の方に教育面での育成について理解してもらえれば、先生方も自分の時間が持てるし、有効だと思う。 委員) スマイル東海としては、中学校の部活動に関わらず、子供たちがスポーツを楽しめる場所と指導員を提供できるような環境を整えていきたい。また、中学生のスポーツ環境について、学校と一緒に考えていきたい。 委員長) 中学校の部活動の加入率は男子では9割。学校と連携し
--	--

	てよりよいスポーツ環境を整えてほしい。 委員) 今年度初めて小学校でニュースポーツ教室を実施した。ニュースポーツはどの子どもも楽しく実施できる。小さい子から高齢者まで誰でも楽しめるのがニュースポーツの良いところなので、今後も一層普及させたい。 【結果（基本目標１）】 進捗管理シートについて修正意見なし。 ○ 配付資料の説明…資料２（基本目標２） 委員) 施策２－①の主な取組の一つ、「妊婦、子育て中の母親」を対象としたスポーツ教室として、今年度から絆のショートコースで「親子ウォーク」を実施している。妊婦や子育て中のお母さんが親子で絆の周囲を歩く。母親同士の交流や子供同士の仲間づくりにもつながっている。親が運動を楽しむことから、子供も運動を好きになる。夏に実施している「とうかい朝ウォーク」では家族で参加する姿が多くみられる。親がお手本になって子供に運動の楽しさを伝えるよい取組であり来年度も実施する予定である。 委員長) 子供が外遊びをしないのは場所や時間がないといった指摘もあるが、親のつながりがあると、子供同士でも遊ぶきっかけができる。先程の取組は、親同士のコミュニケーション、情報交換の場としても、子供同士のきっかけづくりとしても有意義であり、「基本目標３」のまちづくりにもつながるととても良い事業だと思う。 委員) ウォーキングの際には水分補給を忘れないように注意してほしい。 委員) 県では、主に働く世代や健康無関心層が気軽に健康づくり活動に取り組みやすいよう、「いばらきヘルスケアポイント」事業を実施している。これには、県が開発したスマートフォン用アプリケーション「元気アップ！りいばらき」を活用しており、約１万５千人が登録している。県と企業がタイアップした
--	---

	事業であるが、こうした既存の制度を周知、活用することも必要だと考える。「アクティブ・チャイルド・プログラム」と同様に既存の事業で活用できるものは使ったほうがよい。 委員) 村でも県と同様の取組として「とうかい健康ポイント事業」を行っており、県の事業と連携している。獲得したポイントに応じて記念品がもらえる。 委員) 2-②の取組みの中で、今年のスマイルマラソンで新たに運営ボランティアを募集し、6名が参加してくれている。こうしたスポーツボランティアの取組は「“スポーツのまち” 東海村」の推進にもつながると思う。 委員) 国体を契機にボランティアの意識が高まり、こうしてスポーツボランティアの第1歩を踏み出したことは意義がある。今後、村や各団体が実施するスポーツイベントでも積極的にボランティアの活用を考えていけばよいと思う。 事務局) 茨城国体ホッケー競技会でのボランティア登録者は約400人。スマイルマラソンでのボランティア募集に当たっては、国体のボランティア参加者にも案内を送付した。国体ボランティアではスタッフジャンパーや帽子等の支給物品を配付できたが、一般的なスポーツイベントのボランティアだと弁当程度となる。「支える」スポーツを推進するためにも、今後もボランティアの募集、活用については継続していきたい。 【結果（基本目標2）】 進捗管理シートについて修正意見なし。2-①の主な取組について、実施した教室の対象に「妊婦、子育て中の母親」を追加。 ○ 配付資料の説明…資料2（基本目標3） 委員) スポーツ年間カレンダーが2020年度に実施予定となっている。スポーツ情報の発信手段として村のホームページを活用するとの説明があったが、高齢者への配慮として紙での配布も検討してほしい。また、カレンダーにはポイント事業のPRも掲載すると効果的ではないか。
--	---

	事務局) 紙媒体の公共施設等への設置は可能である。 委 員) ここに来る前に出席した企画経営課の会議で、「SDGs」を新しい総合計画に組み入れるとの話を聞いた。スポーツと健康がキーワードになる。3-③の取組はハードルが高いが、今後の村の政策の課題の1つであり、推進していくべき分野と感じた。「SDGs」の目標の1つに、「すべての人に健康と福祉を」というものが掲げられており、スポーツ、運動、健康といった施策に部門を超えて連携、協力しながら取組んでいく必要がある。 委員長) 村の戦略はどのようなものか。 事務局) 総合計画はパブリックコメントを経て3月には策定となる。主は人づくり。スポーツと健康の施策については部門横断的に取り組み、村のまちづくりにつなげていくもの。 委 員) 家族でサイクリングをしようと思ったときに、久慈川河川敷でレンタサイクルをやっているとの話を聞いた。行ってみると、事務所の場所や使用方法の案内も分かりにくかった。設備や事業内容についてもっと周知したほうがよいのではないか。どこが管理しているのかもよくわからない。 事務局) 日立市、常陸太田市、東海村の2市1村で協議会を設置しており、自転車の貸出や修理、サイクリングコースの管理を行っている。ご指摘の通り、PR不足もあって利用者があまり多くない。協議会の中でも課題として挙がっているので、今後改善していきたい。 委 員) PRに関して、高齢者に向けてはアナログ的な宣伝も必要である。 委 員) スポーツ推進委員は昨年から公募で委員を募っている。幅広い年齢層のスタッフがおり、様々なイベントにおける指導が可能である。スポーツ推進委員の活動をより一層広めたい。 委員長) 達成指標の他に、各取組の実績も測っていけるとよい。 【結果（基本目標3）】 進捗管理シートについて修正意見なし。
--	---

	■その他 事務局）今後，施策を進めていく上で，健康部門や福祉部門等と情報共有，連携を図っていく。予算をかけずに実施できるものは適宜取り組んでいく。
10 今後の予定	協議事項に大きな修正がなかったため，今年度の委員会は本日のみ。 来年度は，10月頃と1月下旬に委員会を開催予定。また，任期の更新についても案内予定。